

結心会 モンゴル視察ツアー 報告レポート

1. 主な訪問先および意見交換の内容

① モンゴル投資貿易庁 (ITA / Investment and Trade Agency of Mongolia)

対応者 ザンダン長官 (投資・貿易庁長官)

- ・ザンダン長官は日本への留学経験があり、日本語での直接コミュニケーションを実施。
- ・本企画 (小型機導入による移動活性化・投資促進) について、モンゴル投資貿易庁として全面的に応援・支援する旨の確約を獲得。
- ・※なお、同長官は在モンゴル日本大使館の井川原大使との意見交換 (2026年2月11日) など、日本との二国間協力拡大を担う重要人物。



【写真】モンゴル投資貿易庁にて (ザンダン長官との面談風景)

② モンゴル証券業協会 (MASD / Mongolian Association of Securities Dealers)

対応者 エンクバット・ガンボルド (Enkhbat Ganbold) 会長 (モンゴル貿易開発銀行: TDB Securities 第一副CEO兼任)

- ・小型機購入のための資金調達スキームである「私募債の発行」について、同協会および関連組織にて引き受け・対応いただく方向で協議・合意。
- ・日本にも駐在事務所を有しているため、今後の実務に向けた継続的・密接な連携体制を確認。

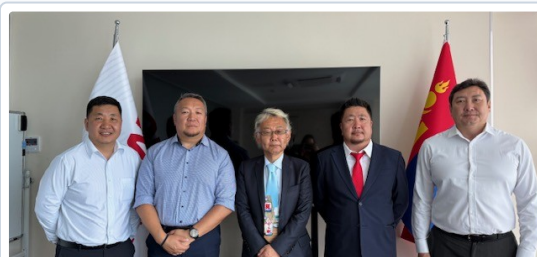


【写真】モンゴル証券業協会 (MASD) エンクバット会長との記念撮影

③ モンゴル損害保険会社 AMAR INSURANCE

対応者 バツル・ツムル・オチル (Batzul Tumor-Ochir) 社長

- ・小型機購入・運用に伴う航空保険の引き受けについて、日本の保険会社との共同引き受けを行いたいという明確な意向を確認。
- ・現地保険事情の把握: 自動車主体の損保市場 (損害率は約4%と極めて低い水準)。人口約360万人の市場規模を踏まえつつ、モンゴル独自の保険スキーム等の可能性について意見交換。

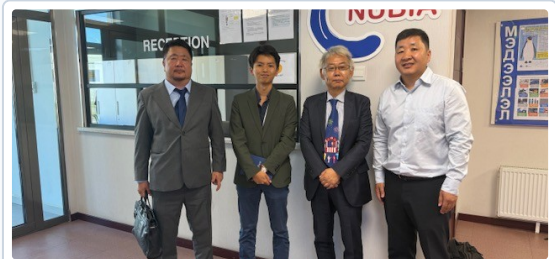


【写真】AMAR INSURANCE バツル社長との記念撮影

④ チンギスハーン国際空港 (New Ulaanbaatar International Airport LLC / NUBIA)

対応者 大原 地上支援局長

- 日本の円借款（約657億円）により建設され、日本企業連合（三菱商事、成田国際空港、日本空港ビルデング、JALUX）が運営に参画する官民協力の現場を視察。
- 日本とモンゴルの深い親密な関係性を再確認し、今回の国内小型機インフラ事業が広い意味で両国の国策に寄与する事業になり得るという視座を獲得。



【写真】チンギスハーン国際空港（NUBIA）大原局長との記念撮影

⑤ モンゴル政府規制機関 モンゴル民航局 (Civil Aviation Authority of Mongolia)

対応者 ムンフナサン・ソドノムレンツェン (Munkhnasan Sodnomrentsen) 内部監査・安全管理部門 局長 兼 上席検査官

- モンゴル政府として小型機導入を推進したい方針であり、積極的に協力して欲しいとの依頼を受託。
- 臨時で離着陸できる滑走路を全国に200ヶ所整備済みであり、今後500ヶ所に拡大して小型機が離着陸できるインフラを強化中との発言あり。
- 協力企業の本業支援につながるモンゴル国内の政府部署の紹介、および補助金等の適用についても検討可能との意向を確認。
- 現在の国営モンゴル航空は近々民営化する予定とのこと。